

狼谷戸の夏景色



ヤドリギの
ついでに
ケヤキの太木

低いところは水田（谷戸田）
として利用されているが、
かなり面積が減った

このあたりの栗林も
もとは谷戸田だった

ゆるやかな南斜面は
昔から畑として利用

谷戸の小川

昔、旅人がオオカミに襲われて
亡くなったという伝承があるため
狼谷戸と呼ばれている

公益財団法人 多摩市文化振興財団撮影

インゲンマメ（マメ科）



栽培している農家では
豆ではなくさやを食べる
サヤインゲンとして
栽培している

狼谷戸の農家で、タネツギ（自家採種）
して作り続けているもので、在来品種
である可能性がある

花色は白かピンク

自家受粉で
実を結ぶ
ことが多い

アメリカ大陸原産で、
すでに原産地で作物化
されていた。
ヨーロッパから中国に
伝わり、17 世紀に日本に
伝来したと考えられている

公益財団法人 多摩市文化振興財団撮影

スイカ（ウリ科）



花は雌雄異花（1つの株に
雌花と雄花がつく）で
自家不和合性がある

縦じま模様の品種が
普及するのは昭和に
入ってからで、それ
以前は模様のない
品種が主流だった

熱帯アフリカ原産で、かなり
古くからヨーロッパに伝わっ
ていたが、日本に伝来したのは
室町時代以降とされている

日本で栽培される品種は
果実が丸いが、海外では
ラグビーボール形の品種
の方が多い

公益財団法人 多摩市文化振興財団撮影

ナツズイセン（ヒガンバナ科）



中国に生える 2 種が自然交配
して誕生したと考えられる。
3 倍体であるため、種子は
できない

8 月に花が咲く

中国原産で、かなり昔に
日本に持ち込まれたと
考えられている

葉は、春に出て
夏前には消えるため
花の頃には葉はない

公益財団法人 多摩市文化振興財団撮影

PARTHENON
TAMA

パルテノン多摩

ここで植物観察

番外編

狼谷戸の夏：平成 27 年（2015）8 月 多摩市関戸 6 丁目

過去の植物観察会で観察した植物をポスターで紹介する本シリーズ。今回は番外編として特別展「多摩の谷戸と農のいとなみ」で紹介した、市役所近くに位置する狼谷戸の植物を紹介します。5、6 月に作成したここで植物観察その①～④の pdf ファイルは、パルテノン多摩ホームページでダウンロードすることができます。

お問い合わせ：公益財団法人多摩市文化振興財団（パルテノン多摩）TEL：042-375-1414

ミソハギ（ミソハギ科）



花びらは 6 枚
雄しべは 12 本
雌しべは 1 本
雄しべと雌しべの長さの
違いで 3 タイプの花がある



多摩では、ミソハギの花を
半紙で束ね、こよりで結んだ
花束を、お盆の時に部屋に作る
盆棚に添えた

公益財団法人 多摩市文化振興財団撮影

北海道～九州と朝鮮半島に分布している
田の畔など湿った場所に生える
狼谷戸でも小川のそばに植えてある

ルリヤナギ（ナス科）



花は下向きに咲く

葉は無毛で粉を吹き
青緑色をしている

草ではなく木で、
樹高は 1 ～ 2m 程度

南アメリカ中部原産で、
園芸植物として栽培されている
日本には、琉球経由で江戸時代
後期に持ち込まれた

公益財団法人 多摩市文化振興財団撮影